

2013 年度 [KATE (The Korea Association of Teachers of English) 2013] 派遣報告書

1. 派遣者情報	氏名(所属・職位)	大石晴美 (岐阜聖徳学園大学・大学院教授)		
	JACET での役職・支部	理事、支部長 ・中部支部		
2. 派遣先学会 概要(国際交流 委員会で記入)	学会名・会員数・締結 年	KATE(The Korea Association of Teachers of English) 1,200 名, 年		
	会長	Jinil Oh (Shih Hsin University)		
	国際交流窓口	Hikyung Lee (Korean University)		
3. 派遣先大会 概要	大会名	2013 KATE International Conference		
	テーマ	Tailoring English Teaching for the Foreign Language Context		
	日時	2013 年 7 月 5-6 日		
	会場	Hankook University of Foreign Studies, Seoul Korea		
	発表件数	120 件		
	一般参加者参加費	20,000 won		
4. JACET 派遣者としての業務(発表以 外、JACET からの派遣者として依頼を受 けたこと、行ったことなど。)		<ul style="list-style-type: none"> ・Pre-conference Reception に参加し、JACET 代表者として挨拶をした。 ・開会式に参列した。 ・海外提携学会からの代表者によるビジネス・ランチ・ミーティングに参加した。 ・懇親会に参加し、KATE 学会員、海外提携学会員と交流をした。 ・JACET2014 の案内をした。 		
5. 本人発表報告	題目	Successful Language Learning: A neuroscience approach		
	発表枠・時間	招待講演枠 40 分	論文提出の有 無	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
	反応等	聴衆は、約 90 名で会場が満席になるほどであった。講演終了後も研究者や大学院生等から質問や挨拶を受け、講演内容に対する関心は高いと感じられた。		
6. 聴講した主な 講演・発表(1 ~2例)	題目	Out of the Mouths of Babes		
	発表者	David Nunan (Anaheim University, California)		
	概要	学習者中心の授業において、学習内容、学習過程、学習結果は、学習者から得られる観察データに基づいて考察、検討されるべきである。本講演では、学習者中心の授業実践および学習者の観察に基づき効果的な教授法が紹介された。		
	題目	Feedback in EFL Writing Issues and Challenges		
	発表者	Icy Lee (The Chinese University of Hong Kong, Hong Kong)		

	概要	ライティング指導において、指導者は常に多大な労力を払って学習者へのフィードバックを行っている。それにもかかわらず、学習者は、同じ間違いを何度も繰り返すことを問題点として指摘し、単に学習結果に注目するのではなく、学習者が自ら間違いに気づくような学習を促進するフィードバックの必要性を主張された。
<p>7. 所感 (780字程度)</p> <p>大会全体の感想、共同研究の可能性、その他の国際交流活動の提案など</p>		<p>1. 大会全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大会の参加者数は450名に上り、大変盛況であった。講演・発表内容は、英語学習理論(言語習得、評価論、教授法、ライティング研究など)や学習実践など多岐にわたり充実したものであった。 ・韓国内外の出版社から書籍出展があり充実していた。 ・招待講演者に対して、空港での出迎え、会場および会場内での案内等は、大変スムーズであった。 ・事前チェックとしては、プログラムおよび大会要綱について、講演者、発表者による確認と時間的余裕の必要性を感じた。 <p>2. 共同研究の可能性</p> <p>本派遣者の著書「脳科学からの第二言語習得論」が、2013年秋に、KATEメンバーにより韓国語で翻訳出版される。この機会に、日韓における英語教育、英語学習を比較検討し、今後の共同研究の発展につなげることの同意を得た。</p> <p>3. 国際交流活動</p> <p>ランチミーティングや懇親会で、韓国、スペイン、香港、タイ、中国からの招待講演者と交流を持ち、各国における英語教育、大学英語の現状と在り方について情報交換をした。今後も、研究・教育面で、意見交換を深める方向である。</p>